

良好な工事模範に技術向上

—南丹市優良建設工事表彰—

市が発注し、平成21年度にしゅん工した工事で、他の模範となる優れた工事を施工した業者に8月26日、表彰状を授与しました。受賞者は、株式会社丹和建設、有限会社西達建設、共栄工業株式会社、株式会社ナガモト、共同建設株式会社の5社。佐々木市長は「年々、工事成績評価が良くなり、皆さんの努力の跡が伺える。今後も建設業界の模範としてご尽力ください」と述べ、受賞者は「技術力の向上に努め、安全な工事施工に励みます」とあいさつされました。



▲受賞者（前列中央3者と後列2者）と理事者



▲通り初めに出発する志和賀区の皆さん

農道完成で行き止まり解消

—志和賀—新堂間道路開通—

9月1日、日吉町志和賀と園部町新堂を結ぶ農業用道路園部日吉線2工区の供用が開始され、志和賀区主催の交通安全祈願祭と開通祝賀式が開催されました。地元区民と事業主体である（独）森林総合研究所などの関係者合わせておよそ70人が出席するなか、厳かに安全祈願を行った後、開通区間の通り初めて完成を祝いました。船越嘉次区長は「念願であった道路が完成し便利になる。この道路の開通を区の発展につなげていきたい」と述べられました。

ダムを活用したまちづくり

—第17回「地域に開かれたダム」
全国連絡協議会現地交流会—

10月5日、「地域に開かれたダム」全国連絡協議会の現地交流会が日吉ダム周辺で開催されました。「地域に開かれたダム」制度は、ダムを活用して自然環境の保全や地域の活性化を図ることを目的に国が指定するもので、全国各地の指定ダム所在地の首長らが一堂に会しました。参加者はそれぞれのダムの特徴や、ダムの施設を活用したイベントの紹介をした後、ビクターセンターやダム堤体内部が見学できるインフォギャラリーを視察し、意見交換を行いました。



▲インフォギャラリーを見学する出席者

南丹市の魅力新しい商品に

—商店街活性化のための「食の逸品研究会」—

地産地消と商店街の活性化を目指す「食の逸品研究会」を10月5日、京都聖カタリナ高校で開催。同校フードカルチャーコースの生徒や市内の食品加工グループら約30人が参加されました。5回開催し、来年2月に各グループが新商品を発表する予定です。「伏見カレー」の開発にかかわったフードコーディネーターの齋藤三映子さんが「地域の素材と物語性を持たせる仕掛けが必要」と新商品開発のための助言をされました。



▲酒かす入りの伏見カレーを試食し南丹ブランドのイメージを膨らませる参加者